

新公会計制度に基づく 財務4表を作成

町の財政状況を表すものとして新たに新公会計制度に基づいて、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の財務4表を作成しました。

今までの決算は単式会計といわれるもので、その年度中にどれだけの収入があり、それをどのように支出したかという現金の動きがわかりやすい反面、町が整備してきた道路や建物などの資産や負債の状況、行政サービスを行うために発生したコスト情報が不足しているといった弱点もありました。

財務4表は、今までの決算書などに加えて、町の財政情報を企業会計的な考え方に基づき別の角度から示すことでこの弱点を補い、よりわかりやすい財政状況の把握・説明や改善に活用するものです。今月号では、その概要についてお知らせします。

詳しい内容は、町のホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

税務財政課・財政健全化推進グループ 74-3003

貸借対照表（バランスシート）

年度末時点において町が持っている資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを表しています。残存価格によって資産価値を表示しています。

純資産比率 73.1% ($< \text{純資産} \div \text{資産} > \times 100$)

資産のうちどれだけの支払が済んでいるかがわかります。

この比率が高いほど、今後支払っていかなければならない借金の割合が少ないことになるので、財政が健全であるといえます。企業会計の自己資本比率にあたります。

社会資本形成の現代負担率 76.2% ($< \text{純資産} \div \text{非金融資産} > \times 100$)

道路や公園などの公共資産を現代の世代でどれだけ負担したかがわかります。この比率が高いほど現世代が多く負担し、未来の子どもたちへの負担が少ないといえます。

負債比率 36.8% ($< \text{負債} \div \text{純資産} > \times 100$)

自己資本に対する借金の割合を表すもので、この比率が低いほど財政状況は健全といえます。

貸借対照表で
なにがわかるの？



資産合計 843億5000万円

町が保有している現金や道路・建物、土地などの財産の内容を金額で表しています。

金融資産 34億9000万円
非金融資産 808億6000万円

負債合計 227億1000万円

道路などを作るために借りた地方債や職員の退職金など、将来世代の負担で今後、返済していく債務です。

流動負債 25億4000万円
非流動負債 201億7000万円

純資産合計 616億4000万円

資産から負債を差し引いた、現世代で支払が済んでいる財産です。